



## コンセプト

- 1956年に建造され、2017年までの約60年間、支所として使用されてきた。
- 市内でも有数の巨大トラス建築として文化的価値が高い。
- 内装は和洋を折衷させ、意匠に優れている。

## 施設紹介

- 1階の一部をゲストハウス、2階は多目的スペースや事務所として再生。
- 百島の情報や芸術関連の本が読めるスペースもある。
- イベントの開催や作品の展示も予定している。





## Q. 旧百島支所の活用方法をお聞かせください。

主にアートを目的として百島へ訪れる観光客や移住希望者が、気軽に宿泊できるゲストハウス、また、地域と交流を図れるコミュニティースペースとして活用されています。2階の大広間は、アートの展示や制作、イベントの開催に適しています。

## Q. 旧百島支所のアピールポイントは何ですか。

1956年（昭和29年）建造の旧百島支所は、広島県尾道市百島町となる以前の沼隈郡百島村の時代に、島民が集う村役場・公民館として建てられ、地元住民にとって思い入れのある重要な建物です。

昭和レトロを感じさせる室内や120畳の大広間があり、建築家からは、市内でも有数の巨大トラス建築として文化財価値が非常に高く、和洋を折衷させ上質な意匠性を帯びた優れた近代建築だとの見解を受け、登録有形文化財としても申請中です。

## Q. 百島のいいところは何ですか。

尾道から高速艇で20分、フェリーで50分の位置にある百島は、時間が止まったような原風景を残し、自然を体感しながら自分と向き合うきっかけになるような場所です。

## Q. アート×尾道という点で、今後のビジョンをお聞かせください。

文化と歴史を色濃く残す尾道とアートは相性が良いため、尾道市街地やほかの島々と、百島が連携して、尾道全体がアートに触れ合える場所として発展していくことが理想です。





## フォトビュー



## フォトビュー





## フォトビュー

